

特集 1／第 6 回「SDGs 日本政策学生研究会」

基調講演 SDGs に若者がとりくむことへの期待

元・環境事務次官
小林 正明

2025 年 2 月 15 日に、千葉大学公共学会が主催する第 6 回 SDGs 日本政策学生研究会が開催された。この研究会は、千葉大学西千葉キャンパスにて対面と ZOOM 配信のハイブリッド型で開かれた。この研究会では、SDGs（持続可能な開発目標）に関連する課題に関する政策提言論文が 8 本発表され、優秀論文賞、優秀プレゼン賞が選考された。以下の記録は、研究会の冒頭に元・環境事務次官の小林正明氏によって行われた基調講演を収録したものである。（倉阪秀史）

みなさん小林正明と申します。今日はよろしくお願いします。撮影の関係で座った方が良さそうなので、座ってお話をさせていただきます。今日はこの SDGs に具体的な課題を捉えてですね、SDGs に息を吹き込むというか、そんな作業を若い学生の皆さんがされるということで大変楽しみに参りました。この研究大会自体には初めての登場なのですが、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

SDGs 採択時の様子

SDGs にそんなに私は貢献したということはないのですが、環境省に 38 年間勤めまして、いろんな環境の課題をやらせていただいたのですが、実はこの SDGs、ご存知のように 2015 年 9 月 25 日に、国連総会の前日の首脳のサミットで採択されたのです。実はそのときニューヨークに行っており、まあ偉そうに言っても、あの国連のよくテレビに出てくる丸い本会議場にはもちろん入っていただけなかったのですけれども、一応ニューヨークで SDGs の誕生に私的

には立ち会ったというようなこともありまして、若干の思い入れもあります。

2015年9月25日、大体9月に国連の総会が定例で開かれるのですが、その前の1日を使って世界の首脳が集まってこのSDGsを採択するという話になりました。もちろん事前に2年ぐらいかけて準備はしてきていたので大体中身は出来上がっていて、各国も賛成であるということも分かっていたのですが、やっぱり首脳が直接来てこれをどういう形で受けるというのかっていうお話をするというような場面がありました。まあ隣の部屋のパブリックビューイングというところで見えていたわけなのですが、トップはアメリカのオバマ大統領でした。1カ国で5分という話だったのですが、オバマさんは30分くらいしゃべっていましたね。オバマさんは名演説で知られる方ですが、あまり長いので中身をあまり覚えてないところです。イギリスはキャメロン首相、フランスはオランド大統領とか、この10年でみんな入れ替わっちゃったんですね。入れ替わっていないのはブーチンさんぐらいかな。習近平さんは来ないので、替わっていないのはブーチンさんぐらいで、みんな替わったのかなというような感じであります。

日本からは安倍総理が行きまして、事前の勉強会みたいなものもやっていたわけです。私は、当時は環境省の地球環境審議官という国際問題の一応責任者みたいな立場でやらせていただいて、総理についていったということでもあります。安倍総理はSDGsがこれだけ幅広いテーマですので大変有意義でということをお話されましたが、2つ具体的なテーマを話されました。

1つは、この年の3月に仙台で仙台防災枠組みができました。東日本大震災から数年という段階で、3月の世界防災会議が仙台で成功したということも受けて、日本はかなり問題意識を持ってるんな提案をしていました。日本は津波の日を設けていました。これは3月11日じゃなくて、和歌山の昔の江戸時代の津波に当時の村でうまくみんなを避難させたっていうことを記念した11月5日だったのですが、世界津波の日っていうのを制定しようということと呼びかけました。これは結局その後の国連総会で実ったのです。

もうひとつはですね、さっき森下研さんが循環型社会の構想の構築に貢献されたって話がありましたが¹、3Rについてです。リユース、リデュース、リサ

イクルを 3R ということで、日本は早くから取り組んでいました。リサイクル自体もかなり日本はいい成績を上げているということがありまして、安倍総理が 3R について世界に貢献し広めていくというようなことをお話しされました。これは非常に印象深いです。今は、サーキュラーエコノミーということで、動脈と静脈が一体化していくという意味でより進化しようとしています。

2015 年に起きたこと

そのようなことで全首脳が賛成をして SDGs が採択されたわけなのですが、この 2015 年というのは、結構印象的なのか歴史的にも残っていく年なのかなと思うのです。あまり大きな話題になったかというところとちょっと疑問なところがありますが、さっき申し上げたように 3 月に世界防災会議をやって仙台防災枠組みができました。先進国途上国を問わず、どこの国でも災害に遭う可能性はあるということでこの枠組みができました。つぎに 9 月 25 日に SDGs が採択されました。そして、気候変動枠組み条約のパリ協定です。これができるかできないかというのが当時の世界の大きな関心事でして、11 月の終わりぐらいから 12 月にかけて、なんとか協定が仕上がっていったのです。そういう大きな 3 つのことが 2015 年にありました。

従来は世界的な枠組みとはどうしても先進国が途上国をいかに引き上げるかというような枠組みであって、お金をどう出すかとか技術をどう移転するかということがどうしても中心でありました。この防災、SDGs、温暖化対策のパリ協定と役割の違いはあるのですが、そこに共通しているのは、先進国も途上国も、みんなその影響にさらされるし、お互いがそれぞれなりに貢献していかないと解決できない、途上国ももう先進国のせいでこんなことになったんだから支援しろと言ってるだけでは収まらないという認識です。途上国も経済活動がどんどん伸びてきていますので、先進国と途上国が、それぞれなりに、でも

¹ 今回のコメンテーターの森下研さんの紹介の際に、森下さんがコンサルタントとして環境庁が 1990 年に設けた「環境保全のための循環型社会システム検討会」を支えたことが紹介されていた（倉阪秀史）。

ひとつの共通の基盤で対策を取っていかなきゃいけないということが、ようやく先進国と途上国のいろんな激しい対立の末に出来上がったということが非常に大きいと思います。このようなことを、当時、外務省の国際問題の幹部とも話したことを記憶しています。

これから世界は明るくなるのではないかと思って 2015 年を迎えたのですが、ご承知のように、その後、第 1 回目のトランプ大統領が誕生しまして早速パリ協定は抜けますよっていうことを言ったり、それから EU からイギリスが抜けるっていう話もあったり、その後コロナ禍があって、ご存知のように今、ウクライナの侵攻とかガザとかも問題が続いています。ちょっと世界はどちらかというと分断されてどうなのかというようなところがあります。でも、いくつかの大きな国際約束がまとまってきたようなプラスの面、一方で動乱や分断など懸念される事態の進行、みなさんは、全体をぜひ冷静な目で見ていただければと思います。

SDGs の反響

そのようなことで、大変大きな成果が上がったなということでニューヨークから帰ってきたのですが、正直言って、報道はもちろんされたのですが、そんなに注目されていたかという、盛り上がり帰ってきた我々からするとちょっとあっけない感じでした。なんかまとまったらいいね、みたいな感じですね。中身は非常に壮大なもので、パッと理解しにくいっていうのもあったのかもしれません。むしろその後に来るパリ協定、温暖化対策の国際的な枠組みがまとまっていくかどうかというところに、みんなの意識は集中していたような気がします。

ただ SDGs にはいろんなことが書かれていますが、環境だけではなくて経済それから社会的なものを統合してやっていくということで、非常に大きな一里塚になっていく、目標になっていくというように感じました。環境省も帰ってきてから、産業界の方とか、民間の方、NGO の方も含めて、これはどういうことがまとまってどういう意義があるかというようなことを議論する場を設け

ました。外務省ももちろん随分 PR に努力されましたし、内閣の中に政府横断的な推進本部を作ったというようなことで進んできました。今日、民間企業の方も含めて、これだけ共通認識になっているっていうことは、ちょっと驚きでもあり、大変良かったなというふうに思っています。

その背景には民間でもグローバルコンパクトとか普及にずいぶん力を入れておられ、みなさんの努力もあったと思います。

また、企業に対する投資は、まともにお金が回収される健全なものに出していかなくちゃいけないというのは当たり前のことだったのですが、それだけではなくて、社会的な責任も考える、それは環境であったり、社会的な公正性であったりという側面も考える ESG 投資が広がって来ました。そういう呼びかけ自体は、国連の責任投資原則ということで、その前からあったのですが、必ずしも、特に日本ではあまり見向きをされていなかったのが、だんだんそれ抜きにはお金が調達できないということになって、意識されていきました。ESG の E は environment で環境ですし、S は social、G は governance ということです。SDGs とも平仄が合って、これだけ広く認識されるようになったことは、大変いいことかなと思っています。

SDGs の前史

そのようなことで国内でも SDGs を大事にしていこうというようなことでいろいろ話をしました。これは皆さんご存知だと思うんですが SDGs っていうのは突然 2015 年に生まれたわけではなくて、その前身の MDGs (ミレミアム開発目標) っていうのがありました。これも全然知られていなくて、恥ずかしながら私も SDGs のときまで MDGs のことは正直言って知らなかったですね。MDGs はゴールも 8 つ、ターゲットも 21 個で、貧困を撲滅するとか、あるいは飢餓、物が食べられないような状態をなくしていくとか、乳幼児の健康、妊婦の健康保護みたいな形で、SDGs に比べると非常に基盤的なというか、大前提となるようなことをなんとか引き上げていこうということで、視野に入っていたのは途上国ですね。途上国をどこまで引っ張り上げていくのかということ

でした。2000 年になったとき、ミレニアムが変わったっていうことで（皆さんは多分生まれてないのですが）、1999 年から 2000 年になるってというのは、地球になんか大変なあれが起こるってというようなまあ迷信めいた話もありましたが、1000 年代と 2000 年代が同じじゃいけないってことは結構みんな意識していたのですね。もう 25 年経ったって忘れたかのようではありますが、そのような機運のなかで MDGs というのもまとまって、世界で取り残された人を引き上げなきゃいけないってことでできたんだと思います。SDGs はご承知のように環境とかあるいは生活の仕方、生産の仕方も含めて、全く違う世界をつくっていくっていうようなことで出来上がったので、まあ相当、様変わりしたものができましたが、それは MDGs があってそれが進化した形で SDGs ができたのです。

もうひとつの系譜として、環境はベースとして大事だけれども、経済との関係、それから社会との関係も意識して、全部統合的にやっていかなきゃいけないということ自体は、環境に携わった者からすると結構古くから考えられていました。もう 30 年以上前、1992 年にブラジルのリオデジャネイロで地球サミットという首脳が集まる会議があったのですが、そこで皆さんもご存知の気候変動枠組み条約と生物多様性条約という 2 つの大きな条約が署名されました。そのような非常に歴史的な会議でしたが、そこで持続可能な開発、サステナブルディベロップメントという概念が大きく取り上げられて、アジェンダ 21 という膨大な 500 ページぐらいある行動計画ができました。そのなかには、環境の問題が大きく書かれていたのですが、同時に貧困を撲滅していかなきゃいけないとか、人間の生命健康を守るのは大事だっていうことも書かれていました。また、ジェンダーの問題、先住民の権利とかそういうことが面々と書かれていて、環境問題をやるのにこんな幅広いこともやらなきゃいけないのかと、環境省の職員もびっくりしたのですね。

「環境」と「経済」っていうのはまあだいたい対立関係というか、「経済」とか開発に「環境」はなかなか強いたげられ、なかなか抵抗できない時代が続いていました。持続可能な開発の「環境」と「経済」は、「経済」のためにも「環

境」は必須である、「環境」が本当の意味で健全な形できちんと位置づけられて発展していくためには「経済」も重要だという考えです。その「環境」と「経済」の関係に「社会」的な要素も入ってきました。これらの延長上で、これからどうしていくかということで連綿と取り組んできたことが結実したのが SDGs ともいえます。できてみるとできるだけしてできたのかなという感慨や、ようやく本筋に上がってきたのかなというところがありました。「環境」と「経済」と「社会」を全部視野に入れてそれがうまく統合するようにやっていかなきゃいけないということ自体は SDGs よりはやっと早かったと思います。

地域循環共生圏と SDGs

環境省では、気候変動だから脱炭素にしていかなきゃいけないということ、さきほども出ていた循環型社会を作らなきゃいけないということ、生物多様性なり自然と共生していくということといった 3 つの大きなテーマを掲げてきました。これらのテーマはある意味永遠のテーマとしてあって、それぞれのセクションで頑張っていたのですが、それをもうちょっと統合した形でやっていかなきゃいけないという考え方が出てきました。今から 10 数年前のことです。リサイクルをしながら廃棄物をなるべく減らして処理していくということにしても、量を減らすために焼却したら CO_2 が出てくるので、循環型社会を作っていくときにも脱炭素ということと無縁ではいけないといった関係です。そのようなことを横断的に議論するという考えが環境省のなかでも盛り上がって、審議会でもそれぞれ分担している部会の部会長さんが継続して議論してというように機運が盛り上がっていました。いきなり日本全体では難しいので、地域のなかでそのようなことを実現していったらどうかというようなことで、地域循環共生圏という考えも環境省が提唱しました。

このように環境、経済、社会の統合を実現していこうと取り組み始めていたところに SDGs も採択されて平仄が合ってきたということだと思います。だから地域循環共生圏というものを実現していこうというときには、地域のなかで、お金の流れや、全ての基盤になるエネルギーの流れがどうなっているかを分析

することも必要です。そのためのノウハウというかツールも作って普及してきています。水俣病というのは環境行政の原点みたいな存在なのですが、地域循環共生圏のモデルケースはまず水俣でやりました。

他の自治体とも同じなのでしょうけれども、使っているエネルギーはやっぱり天然ガスだったり石油だったり灯油だったりってところがどうしてもメインでした。今、だんだんそれを再生可能エネルギーに変えていこうとしていますが、その化石燃料というのは、結局、もともとみな海外から入ってきているので、お金の流れからいくと、日々の生活や産業にエネルギーを使うたびにお金が外に流出していくということになります。それが、再生可能エネルギーで、風力発電にしても太陽光にしてもあるいはバイオマスにしても、地域内でエネルギーを作っていけば、地域内でお金も中で回して、地域が底上げしていけばいいのではないかなと思います。そのようなこともまず取っ掛かりにしながら、地域づくりを考えていこうというようなことも SDGs を具体化していく上での大きな取り組みだと思います。

SDGs に取り組むみなさんへの期待

そのような SDGs ですが、2030 年が目標期限というので、もう 15 年のうち 10 年は過ぎてしまいました。これからどのような成果を上げ刈り取っていくか、ということだと思います。今日のみなさんの発表が、それに大きな刺激を与えていただけるとありがたいなと思います。特にみなさんへの期待ということで 2 点申し上げたいと思います。

SDGs と言ったり 2030 年アジェンダと言ったりしていますが、もともと採択されたものは The 2030 Agenda for Sustainable Development ということなのですが、その前にひとことついているのです。これが、Transforming our world という言葉です。だから、この今の社会、世界を変えていきましょうっていうのが大きなメッセージかなと思います。ものごとを変えていくっていうのは、抵抗勢力がいたりして、どの時代もどこの世界でも苦労があるんですが、そこを突き破っていくのは、みなさん方の曇りのない目だったり、非常にフレッ

シュな感覚だったりします。本当に大きな力があると思います。私も、福島での、東日本大震災、それから特に放射能の事故からの復興には長らく関わってきているのですが、ある意味煮詰まったり、今までの経過にとらわれたりするところも大きいのです。そこに新しい目で、学生の皆さん、若いみなさんが来て、何を感じ、何を発信するかというのは、非常に大きな力があるということを実感しています。経験がないということは、決してマイナスではなくて、だからこそ見えてくるものとか、感じるものがあるということがあります。それをぜひ発信していただければと思います。

2点目は、これは今回の研究の成果を出す要件のひとつにもなっていますが、ちゃんと現場のことを分かって理解してまとめなさいよというような要件が書かれていたと思います。これは本当に大事なことだと思うのです。今はいろんな媒体が発達して、本当に広い情報を受けることができるし、生成AIが簡単に整理してくれるような時代です。生成AIは網羅的に集めたり整理したりというようなことは得意なのかなと思うのですが、やっぱり次に向かっていこうというときには、物足りないというか、それだけじゃ何も生まれてこないなという感じもあります。どうしても時間の限界、あるいは物理的な限界があると思うのですが、やっぱり焦点になっているところの現場に立つということ、写真とか映像でも見られるんでしょうけど、自分の目で見たり聞いたり肌で感じること、あるいはその印象ですかね、どういうものを自分がどう思ったかっていうことはやっぱりすごく大きな情報だと思います。

もしかしたら、そのときに意識の上に顕在化しなくても、そこで見たり感じたりしたものが、あとで、自分が悩んで何か答えを出していくときに出てくるってことが必ずあるんじゃないかと思うのです。それをぜひ大事にしていたきたいと思います。現場というのは、その土地に行き、ものを直接見ないと現場でないということでもないと思います。単に書いたものを読むのではなくて、直接当事者から話を聞くってこともすごく大きな情報がそこにあるのではないかと思います。そこですぐ感じたことっていうのも大事でしょうし、分からないけど何か違和感を覚えたとか、気になることがあってわだかまりと言っ

でもいいのかな、今ひとつ得心できないものがあつたっていうことも、これは自分が未熟だからとか、まあ大したことじゃないだろうと言って片づけずに、是非そういうものも大事にしてとっておいてください。いずれそれが活きたり、それに応えられたりするときにくるということを、長年やってきていると感じます。

ぜひ自分の感性を信じて、そういうことに取り組んでいただきたいと思います。そしてまあ感じ方が磨かれていくってこともあるのですよね。一箇所見たときはわからなかったけど、2箇所、3箇所みたら、まあその比較検討なのか、共通している、違うはずなのに同じだってこともあるかもしれないし、こういう違いがあるなってこともあるのかもしれないし、だんだん蓄積されていくものもある気がします。ぜひそういうものを大事にしてこれからも取り組んでいただければと思います。

(こばやし まさあき)